

栄養管理、リハビリ介入により 栄養状態が改善した一例

岡山中央病院 栄養科 管理栄養士 西井詩於莉

窪田寿子 畠田菜穂 横畑雄矢 新谷依美 菅野冴香 菅田祥子 甲斐ちひろ

日本栄養治療学会 利益相反開示

筆頭演者名：西井 詩於莉

本演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係
(COI)にある企業等はありません。

症例 74歳 男性

【主訴】

発熱、咳

【現病歴】

COVID-19感染症で入院し、その後誤嚥性肺炎を併発した。
長期臥床により、仙骨に到達する褥瘡(ステージIV)を形成した。
総合病院へ転院し、褥瘡に対する治療が行われた。
その後の創部処置目的で当院へ再転院となった。

【併存疾患/既往歴】

2型糖尿病、多発ラクナ梗塞、パーキンソン症候群、
遅発性ジスキネジア、他

入院時の身体所見

- 身長：162cm 体重：50.1kg BMI：19.1
- 褥瘡：右臀部 皮弁再縫合部 2ヶ所ポケット形成(+)
浸出液(+) 感染徴候なし



総合病院へ転院前



再入院後

入院時検査所見

白血球:	8020/ μ l	HbA1c	5.9%
赤血球:	345×10^4 μ /l (↓)	血糖	133mg/dl (↑)
ヘモグロビン	11.5g/dl (↓)	γ - GT	25U/l
ヘマトクリット	35.3% (↓)	AST	7U/l (↓)
血小板	30.1×10^4 / μ	ALT	12U/l (↓)
		CRE	0.60mg/dl (↓)
		e-GFR	98.6mL/分/1.73m ²
		TP	6.2g/dl (↓)
		A1b	2.7g/dl (↓)
		ChE	185U/l (↓)
		CRP	2.2mg/dl (↑)

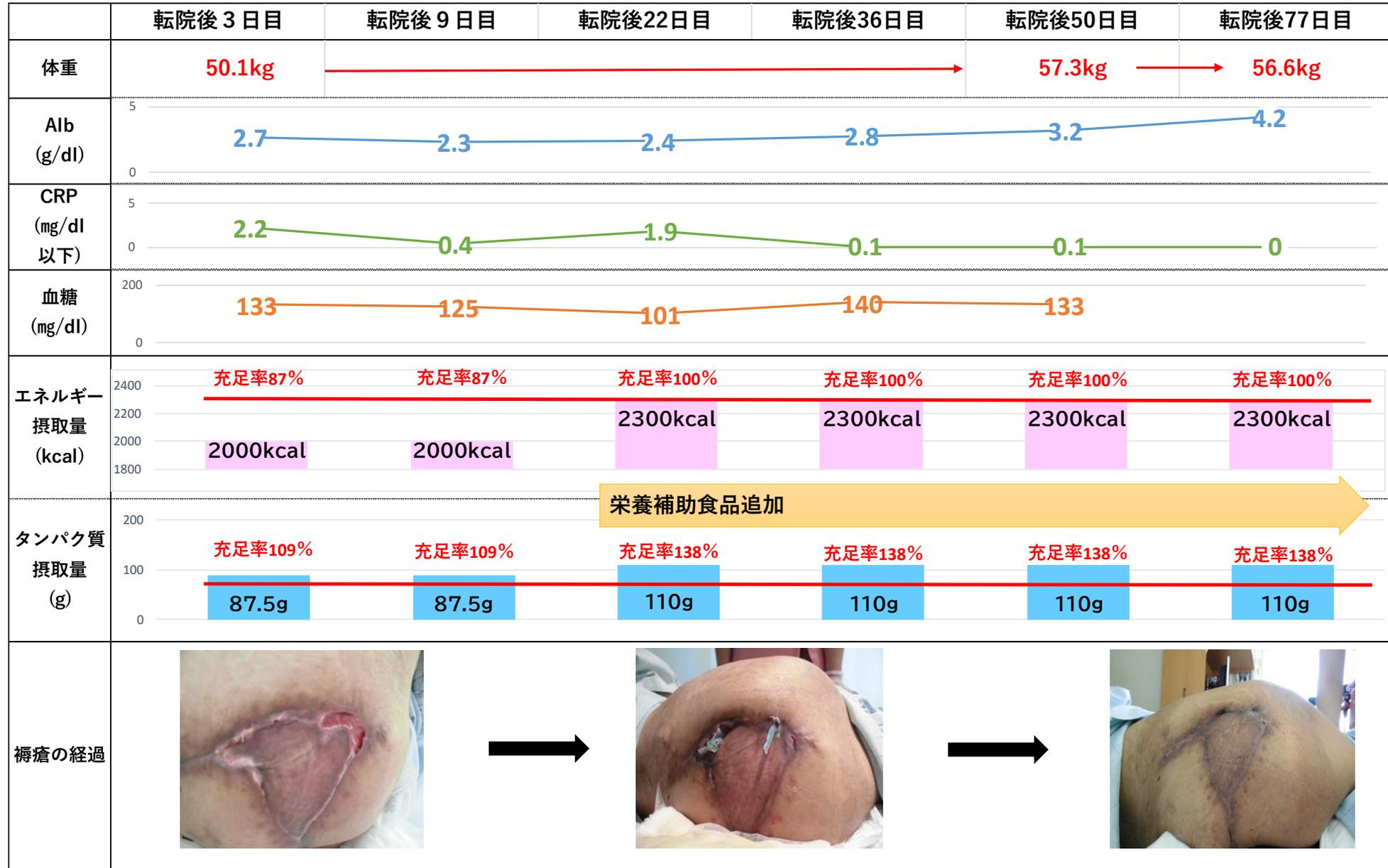
問題点

- 長期臥床によりECOG-PS4へ低下
 - 重度低栄養 (GLIM評価より)
 - 臀部褥瘡手術後の慢性炎症



栄養介入・医学的リハビリテーションの
介入を開始

臨床経過



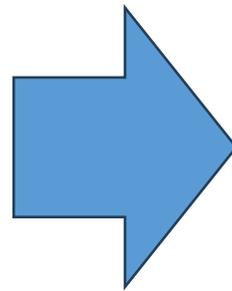
リハビリ介入による全身状態の経過

目標：起居動作、杖歩行が自己にて可能

介入前 ECOG-PS 4

下肢筋力の廃用性筋力低下が
著明

基本動作は中等度介助レベル
立位保持時に膝折れあり



退院前 ECOG-PS 2

徐々に筋力、耐久性の
改善あり

杖歩行は一本杖、独歩で20m
程度可能

考 察

栄養とリハビリの介入により、栄養状態と全身状態の改善が認められ、褥瘡は治癒した。

最終的に杖歩行が可能となり、在宅サービスを受けることなく自宅退院となった。

結語

管理栄養士や療法士などの多職種の介入により、低栄養で長期臥床していた患者の栄養状態と全身状態が改善し、自宅退院が可能となった症例を経験した。

現在、病院内の低栄養患者に対して早期に栄養介入できるように、NST(栄養サポートチーム)の立ち上げ準備を進めている。